

逆打ちのいわれ

昔、衛門三郎えもんさぶろうという者がおり、お大師様にお会いするため、追いかけるようにお四国をお参りしていました。しかしいくら進めど、お大師様にお会いすることが出来ず、立ち止まり考えておりました。そしてふと後ろを振り返ってみるとお大師様がいらっしゃったのです。

衛門三郎は、お大師様は自分の前を歩いておられたのではなく、いつも後ろから自分のことを見守ってくださっていたのだと悟りました。

衛門三郎がこの事に気が付いたのが閏年うるうどしであったとされ、その年に逆からお参りをすれば、お大師様にお会いすることができるという風習が生まれました。現在も閏年には多くのお遍路さんが逆打ちをしておられます。

またこの出来事から「同行二人」という言葉が生まれたともいわれています。

散さん華げ

「散華」というお経の中に「香花供養」という言葉があります。昔は蓮などの生花の花びらを撒きながらお唱えをし、仏様を供養していました。現在では、花びらに見立てたものを撒きながらお唱えをしています。

散華は寺院の落成式などで参拝記念に皆様にお配りすることで知られており、今回「閏年逆打ち巡拝記念」として光明真言の梵字入りの散華を皆様に授与することとなりました。

讃岐二十三ヶ寺で授かった散華を台紙に貼り、光明真言曼荼羅を完成させてみませんか。